

乾性角結膜炎(KCS/ドライアイ)とは

アメリカンコッカースパニエル、キャバリア、ボストンテリア、シーズーなどの犬種で多く見られます。涙液を分泌する涙腺が何らかの異常を起こして分泌量が低下している状態です。またパグ、ヨークシャーテリアの子達では涙腺の形成不全による先天的なものがあります。

《症状》

- 白目や結膜が充血している
- 寝起きにべたっとした目ヤニが目の全周に付く（本来目ヤニは目頭だけに付きます）
- 目をこすったり気にしたりする
- 目の表面がつやつとしておらず濁って見える
- 角膜が黒くなる（色素沈着）

《原因》

- 免疫介在性
- 糖尿病
- 甲状腺機能低下症
- 顔面神経麻痺
- 薬剤投与（サルファ剤等）
- チェリーアイでの第三眼瞼（瞬膜）の切除 等



《診断》

シルマーティアテストを行います。

「シルマー涙液試験」(Schirmer's Tear Test, STT)とは、涙を吸収しやすい細い紙を目に挟み、涙の分泌量を測る簡易テストのことです。

通常の子では、涙を含んで変色する部分が1分間で15mm程度ですが、ドライアイの子では10mm以下になるとされます。

《治療》

◆免疫抑制剤の点眼・眼軟膏

原因の多くが免疫介在性、つまり自分の免疫によって発症するもののため、シクロスポリンやタクロリムスという免疫抑制剤の目薬を使用します。改善すると涙液の分泌量が増えます。

◆原因疾患の治療

糖尿病や甲状腺機能低下症などの全身疾患が原因の場合はそちらの治療をしながら目を保護する治療を並行して行います。

◆目の保護

目が乾燥した状態だと、細菌感染を許しやすくなり細菌性結膜炎や角膜潰瘍を容易に引き起こします。ヒアルロン酸点眼を頻繁に使ってあげたり、寝る前やお出かけ前などしばらく点眼できないときは眼軟膏を使うなどして目をなるべく潤してあげることが大切です。

細菌感染や目のかゆみから目をこすってしまうことで、目が傷つきやすくなってしまいます。目の傷は早期に適切な治療をしないとどんどん傷が深くなり、眼球穿孔（目の表面に穴が開き、中の眼房水が出てしまう）など危険な状態になってしまいます。